

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	支援に行き詰まった場合は原点(理念)にもどりどうすればよいかスタッフ全員で知恵を出し適切な支援につとめたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	地域全体へのホームの理解を求める。啓発活動は充分ではなく今後広報等の発行に取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	広報等活用し積極的なPRを行い、気楽に立寄っていただけるよう取り組んでいきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	今のところ具体的な取り組みはしていない。	○	今後、諸機関(役場、社協、診療所等)と連携をはかりホームとして何ができるか検討し、取り組みたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を通じできていること、できていないこと整理することができた。外部評価のための自己評価といった意識が強い。特に記録等、帳票類への整備の認識が深まった。	○	本当の意味でのサービスの質の確保にむけ運営マニュアルとして活用し、できてないことは改善をはかりできていることでも更に上をめざして行きたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度推進委員を選任し立ち上げた。事業計画、事業報告外部評価等説明報告を行い、委員からの助言をいただいている。	○	概ね2ヶ月に1回としているが、開催頻度は現状は少ない。最低でも四半期一回は開催し会議を活用し、サービスの質の向上につなげたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	常に役場に出向き、担当者とサービス運営について話し合いを行なっている。	○	今後通所事業導入に向け検討して行きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護についての知識は十分でない。	○	外部研修等学ぶ機会があれば積極的に参加させたい。また、施設内でも計画的に研修を実施して行きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特に勉強会等設けてない。まずあり得ないと信じている。	○	機会があれば研修等同じ知識を得たい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族等の訪問を事前に行い 来苑いただいてホームの説明を十分に行い納得理解を得ている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	部屋に意見、苦情等の記入用紙を設置し意見箱に投函するよう また 第三者委員、苦情解決責任者の名前も掲示している。	○ 今後も利用者の意見を聞く工夫をしていく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ファミリー通信を発行し、生活の様子を報告している。金銭管理は出納伝票に記入し買物をした際には領収書を添付し2ヶ月に1回郵送にて家族に報告している。	○ 今後も内容を充実したものにしていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、家族の意見等反映できるよう記入用紙を設置し対応している。また、公的な苦情受付機関も紹介している。また、運営推進委員会の場でも意見を聞くようにしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを開催し、運営についての改善等話会いを家族にしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員も増やし対応している。また、勤務調整が必要な場合は職員間で話し合い調整している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の担当を決め信頼関係の確立に努めている。狭い地域でありお互いに知っており特に問題ない。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>○</p> <p>○</p>	<p>バックアップするとともに自己目標管理シートを活用して職員の意見を反映してOFFJT研修計画を推進していきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>○</p>	<p>今後 定期的な情報交換等の場を設けサービスの質の向上に努力したい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>○</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>○</p>	<p>今後も職員と面談を通じ積極的に推進したい。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>○</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>○</p>	<p>家族の意見 要望を聞く機会を定期的に設け支援に反映したい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っていることや不安なことに対して出来ることはすぐに実行し、出来ないと思うことでも容易に逃げず対策を考えている。可能な限り相談者には柔軟な対応を行い場合によって地域のケアマネジャー等と連携している。	○	今後も積極的に取り組んでいきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が見学してもらうことから始め事業所での生活が安心して利用出来るよう遂行している。	○	必要があれば家族に宿泊していただくような対応も考えていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側、支援される側という意識を持たず、お互いが協働しながら和やかな生活が出来るよう場面づくりや声かけをしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いによりそいながら日々の暮らしの出来事や気づいた情報の共有に努め本人と一緒に支えるために、家族と同じような思いで支援していることを伝えている。	○	家族もチームの一員としてできる役割をお願いし両方で支えていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の本人への思い本人の家族への思いを受け止めて両者の思いが結びつくような働きかけを心がけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの友人知人等に面会にきていただいたり、昔から利用している理美容院に行き、一人ひとりの生活習慣を尊重している。	○	まだまだ馴染みの人にホームにきていただける働きかけが弱い。今後更に工夫し拡大していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個別に話しを聞いたり相談にのったり皆で楽しく過ごす時間や気の合うもの同志で過ごせる場面づくりをするなど利用者同志の関係がうまくいくように職員が調整役となって支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設へ移られた方にも利用者と一緒に遊びに行ったり、来てもらったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の係わりの中で声をかけ把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推測したりそれとなく確認している。意思疎通の困難な方には家族や関係者から情報を得るようにしている。	○	普段の生活の中で利用者の言動等よく観察し、気づきをさらに築き上げて行きたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に家族や本人より聞き取るようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解し出来ないことより出来ることに注目し、行動や小さな動作から感じとり本人の全体像を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるよう本人や家族の要望を聞き事業所外の関係者の意見を含めて課題となることをスタッフ全員で話し介護計画の作成に活かしている。	○	可能な限り話し合いの場に本人も参加していただけるよう工夫し、働きかける。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況、効果などを評価するとともに職員が記録する利用者の状態変化や状況 家族、本人の要望に応じて見直しを行なっている。	○	更に家族、本人等と話し合いの場をもち、要望等介護計画に反映したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルし、食事、水分量、身体的状況及び日々の暮らしの様子や本日の言葉エピソード等記録している。	○	日々の様子の記録を見出しをつけ簡潔なものにして行きたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	予定日以外の外出外泊家族の要望を臨機応変に対応している。通院送迎には柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人と地域とのさまざまな接点を見出し周辺施設への働きかけやボランティアへの協力を呼びかけている。	○	特にボランティアについては今後更に積極的に活用を図り利用者の生活の質の充実につなげたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望や体調に応じて訪問理美容サービスを利用してもらっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの連携はグループホームとしては現在のところ希薄である。	○	現在、運営推進会議の構成員ではないため構成員として検討し情報交換等行いたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけの医師により定期的な診療を行なっている。緊急時にもかかりつけの医師が対応してくれる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医に限らず、認知症の人の医療に熱心で家族や職員の話をよく聞いて、適切な指示や助言をしてくれる医師を確保している。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	特養の看護職員にお願いし常に健康管理や状態変化に応じた支援を行なっている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し家族とも情報交換しながら回復状況等すみやかな退院支援に結びつけている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	在宅介護支援センター、医師、家族等と話し合いの場を設けて対応している。	○	今後終末期の対応についてはホームでできること出来ないことなど家族、医師等と話し合い、できるだけ本人家族の意向に沿うよう対応したい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	職員で定期的に利用者の検証を実施し適切な支援に心がけている。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移動前の施設からの情報や家族との面談 ホームの事前見学等により新施設の環境変化によるダメージを最小限にするよう努めている。		これまでの暮らしの継続性が損なわれないようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	整容の乱れや着衣などについてプライドを傷つけないような声かけをし、気づいてもらうようにしている。また、個人情報については基本方針、就業規則、雇用通知書等で周知している。	○ 個人情報の取り扱いマニュアルを作成し徹底をはかる。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	お食事の時や外食時またお茶時には食べたいもの、飲みたいものを選択している。	○ 複数の選択肢を提案して一人ひとりの利用者が自分で決める場面を作っていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本理念にもかかげ一人ひとりの体調に配慮し、本人の気持ちを尊重し、できるだけ個別性のある支援を行なっている。また、業務の見直し等で職員のペースにならないよう心がけている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	馴染みの理容美容は店で本人の希望のヘアスタイルにしてもらっている。他の人は、職員で整髪している身だしなみも敬老の日等は普段より気をつかい本人の希望に合ったものを着用している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家族の協力で、入居者馴染みの食器を持ち込み、利用者職員と一緒に食事の準備や片付けをしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	酒、たばこをたしなむ方は現在いないが希望があれば、話し合い本人が納得いく支援をする。おやつ飲み物は一緒に買物に行っている。また、行事等はお酒を飲める機会も設けている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄時間やトイレ誘導、排泄チェック表を使用することで、トイレで排泄できるよう支援している。また、一人ひとりのサインを全職員が把握しさりげなく支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴したい日、希望する時間に入浴している。		入居者の希望を確認し、仲の良い同士と一緒に入浴している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	寝つけない時には、添い寝をしたり、お茶を飲みながら、テレビを観会話をし空調にも配慮し、休息がとれるようにしている。日中は活動を促し夜間の睡眠がとれるよう心がけている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事や家事の得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、お願いできそうな仕事を頼み感謝の言葉を伝えるようにしている。また、行楽シーズンには遠足等家族と一緒に出かけられる機会も設けている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分の財布からお金を出すことで社会性の維持につながっており、少額を手元に持ってもらっている。利用者によってはお金を持つことで安心感、満足感を得ている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、本人の気分や希望に応じて季節を肌で感じてもらい、心身の活発につながるよう日常的に散歩、買い物あるいはドライブ等に出かけている。	○	外出の少ない利用者には声掛けし積極的に外出の機会を設けたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人が行きたいと思う場所への外出については、予め計画を立て職員の勤務を調整する等している。家族の協力を依頼することもある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話が3ヶ所設置され自分の都合の良い場所から電話している。電話中はプライバシーにかかわる聞かれたくない会話のときは、職員休憩室の電話を使用している。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	門限時間は設定されているものの必要に応じて訪問に応じている。ホールには居心地の良いソファが設置され気楽に会話ができる。また、プライバシーに関わるような会話は居室の利用をしている。	○ ホームでの滞在時間が少ないため滞在が充分できるよう工夫したい。
(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に関する行為は勉強会はしてなく、共有されてない。	○ 勉強会を行なう必要がある。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな様子を察知したら止めるのではなく、さりげなく声を掛けたり一緒についていく等、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は事務所や台所からさりげなくホールを見ることができ。居室にいる人は数時間ごとに様子を確認している。夜間は定期巡回して安全に配慮している。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況変化によっては注意を促していくなどケースに応じた対応をしている。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット、レポートを作成し事故防止に取り組んでいる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に1回の消防署による救急対応の内部研修は行なっている。緊急時対応マニュアルも揃えてある。	○	講習会等参加し事業所内で自分達で訓練できるよう取り組んでいきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、隣接施設との合同による避難訓練、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている		地域に対する訓練を取り入れる

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	事故が起きてからの対応策を立てることがほとんどで予めま でしていない		1人ひとりのリスクを把握し家族に説明して行きたい。また 苑内研修等設ける。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努 め、気付いた際には速やかに情報を共有し、 対応に結び付けている	普段の姿を把握しており様子等の変化時、看護師に連絡、 報告し医療受診につなげている管理者に報告し職員間で共 有し対応している		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的 や副作用、用法や用量について理解してお り、服薬の支援と症状の変化の確認に努めて いる	処方等のコピーをファイルし職員が内容を把握できるようにし ている。服薬時は本人に手渡しきちんと服用できているかの 確認をしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、 予防と対応のための飲食物の工夫や身体を 動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員はレクリエーション、散歩、家事活動等で体を動かし、乳 製品等で自然排便できるよう心がけている。排便のチェック 表にて確認している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食 後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援 をしている	毎食後の歯磨きの声かけを行ったり介助を行なっている。 就寝前は義歯を外して洗浄をおこなっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日日誌に記入している。栄養士の献立にもとずいて栄養バランスに配慮している。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する予防にはマニュアルを作り、早期発見、早期対応に努めている。利用者職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。ノロウイルスに対してはペーパータオルを使用するなど予防も徹底している。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきん等は毎晩漂白し清潔を心がけている。冷蔵庫も1回/週整理している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入口に案内板を掲示し明るい雰囲気のある玄関になるように花を活けたり玄関先にプランターを置いたり季節感を演出している。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとってタンヌや食器等馴染みの物を取り入れている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関、ホールに椅子やソファ等置き短歌、はり絵、写真等で装飾した居心地の良い空間を作っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や畳等使用し、好みに合わせて居心地よく過ごせている。	○	充分ではなく今後も家族に協力をお願いしていく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気扇を使用し窓を開けるなど空気の入換えを行っている。温度は温度計と利用者の様子をみながら調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は段差がなく、ホールには手すりがあり安全に移動できるよう工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入口には表札や名前入りののれんが設置され、トイレや台所、風呂にも表示がされている。	○	個人に合わせた目線位置にする必要がある。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に花を植えたり野菜を植えたり利用者が日常的に楽しみながら活動出来るような環境で、中庭にはベンチを置いて日向ぼっこができるように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

日々の暮らし方や希望を把握し取り組んでいる。

利用者と共にお茶や食事を共にし、その中で利用者の気持ち、思いを引き出している。

その人らしいペースで毎日を暮らしている。

清掃や体操、洗濯等も自ら行動し、自分の家の仕事をしている様に生き生きと行なっている。

利用者の方が望む、散歩や外出、買物等にでかけている。

週1回の定期検診で先生に診てもらうことで不安なく送り、日々の変化は施設の看護師で対応できている。

その日に利用者が望む事に対しては柔軟に対応している。

2ヶ月に1回の面談や面会時に気がねなく、家族からの意見、要望で対応している。

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
		○	③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

家族の方、友人、知人等がたまに来られる。

昨年設立し会議も今年度1回開催のみで拡がりや深まり等に至ってない。

利用者と共に日々楽しく生活している。

困ったこと等があれば、直ぐに職員に相談し来たり、会話で穏やかな生活を送っている。

ときどきの状況や要望に合わせているので、柔軟に対応している。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホーム諏訪苑の基本理念を具現化し毎月の事業計画に取り入れた事業展開に取り組んでいる。

1. 人間としての「尊厳」や「権利」を損なわず、その人らしい生活を援助します。
2. 家庭的で温かな雰囲気の中で「元気」で「生甲斐」のある「自立」した生活を援助します。
3. 利用者が地域と「共にある」こと、地域の一員として暮らすことを援助します。